

大麦特報 (第2号)

令和3年10月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

播種作業は9月6半旬から始まっています。これから播種するほ場は、土壌が乾いた状態で、遅くとも10月中旬までに播種しましょう。

今後は、排水溝の手直しなどの排水対策を徹底するとともに、分施体系の場合は年内追肥を確実にいき、年内の生育量をしっかり確保しましょう。

1 排水対策の徹底

大麦は湿害に弱く、ほ場に水が溜まったままになっていると根の活力が低下し、生育不良となります。ほ場内の排水状況をこまめに確認しましょう。

降雨後ほ場内に停滞水が残るようであれば、随時溝を深く掘り下げたり、新たに溝を掘ったりして、早急に排水を実施し、越冬前に十分な茎数を確保しましょう。

○排水対策のチェック項目 → ほ場に水が溜まっている場合は、要確認！

- ①縦溝と横溝がしっかり連結されているか。
- ②溝が埋まっている所や浅い所がないか。
- ③額縁排水溝が排水口に確実に連結されているか。
- ④排水口が掘り下げられ、円滑に排水されているか。

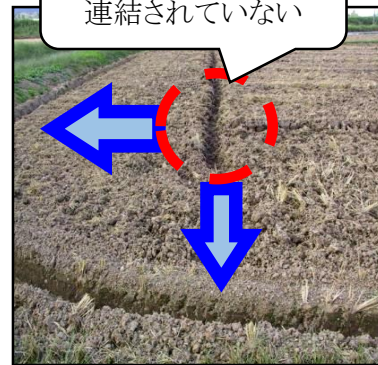
排水口(マス)につながっていない



溝が埋まって排水できない



額縁排水溝と連結されていない



2 年内追肥(分施ほ場)

年内追肥は、茎数の増加を促し穂数や収量を確保するための重要な作業です。播種後1か月頃を目安に遅れないように施用しましょう。

【年内追肥の目安】

施用時期	肥料名	10a当たり施用量
播種後1か月頃	硫安	20kg

※肥効調節型基肥肥料(Jコート大麦48号)を施用した場合は、原則追肥は不要です。